

Asia Indicators

発表日：2023年9月28日(木)

オーストラリア：消費者物価(23年8月)

～ガソリン価格の上昇で総合CPIは再加速するも、基調としては引き続き鈍化～

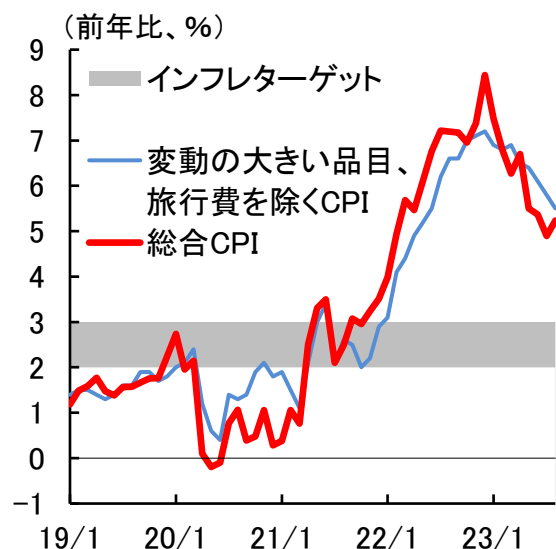
第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 阿原 健一郎(Tel:050-5470-4868)

オーストラリア統計局(ABS)が公表した8月オーストラリアCPIは、前年比+5.2%と市場予想通り(同+5.2%)となり、4月(同+4.9%)からは伸びが加速した。一方で、ABSが月次指標としてインフレの基調判断に有用としている、「価格変動の大きい品目と旅行費を除いたCPI」は、前年比+5.5%と4月(同+5.8%)からは伸び率が縮小しており、インフレ基調としては引き続き鈍化を示している(図表1)。

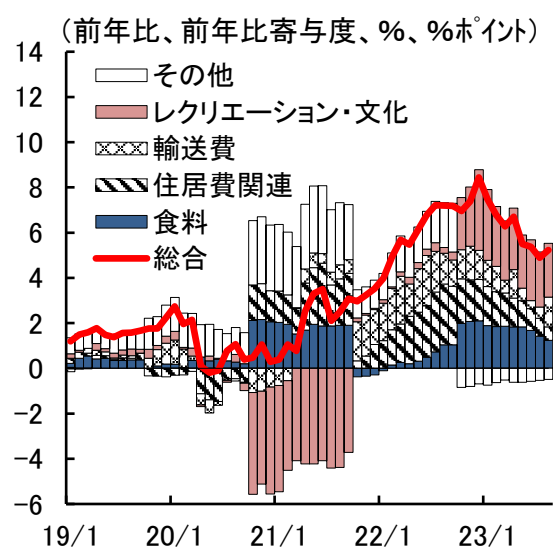
今回の総合CPIの加速は、ガソリン価格を中心とした「輸送費」の上昇が原因であった。総合CPIの項目別寄与度を確認すると、輸送費は+1.3%ptと前月(+0.5%pt)から大きく拡大した(図表2)。8月は、サウジアラビアの自主減産の延長やロシアの減産を受けて、国際商品市況の原油価格が上昇したことから、オーストラリア国内のガソリン小売価格も上昇していた。他の項目の寄与度を確認すると、22年12月のピーク時にインフレ率を大きく上昇させていた、旅行・宿泊費を含む「レクリエーション・文化」や新規住宅価格を含む「住居費関連」は、既往の金融政策の効果から、幾分寄与度が縮小している。

【図表1】月次インフレ率の推移



(注)直近は8月。
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成。

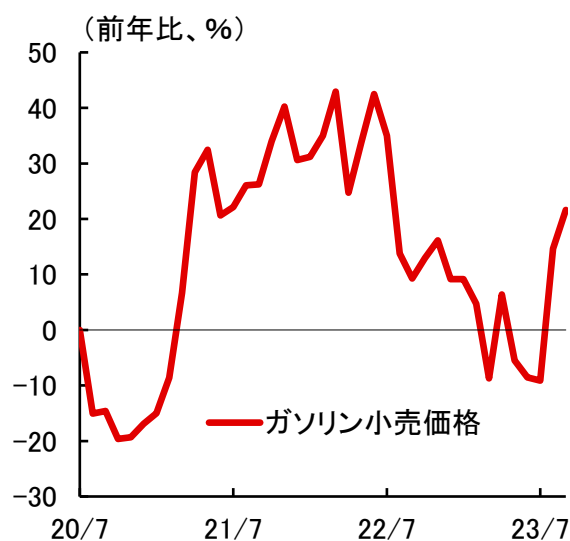
【図表2】月次CPIの寄与度分解



(注)直近は8月。寄与度にはウエイト効果を含む。
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成。

先行きは、引き続き「輸送費」を中心に、総合CPIは幾分加速するとみている。高頻度データでオーストラリア国内のガソリン小売価格を確認すると、9月も引き続き上昇している（図表3）。9月に入り、サウジアラビアが市場予想に反して自主減産を12月末まで延長することを発表し、国際エネルギー機関（IEA）が月次レポートで「大幅な供給不足」が生じる懸念を指摘したことから、原油の需給逼迫が意識され、原油価格が引き続き上昇した影響を受けている。もともと、インフレ基調としては引き続き鈍化しており、今月の総合CPIの再加速をもって、インフレ率の上振れや高止まりの長期化リスクと捉えるのは早計だろう。RBAは10月3日に金融政策決定会合を控えているが、次回会合では据え置きを継続して、政策効果の見極めに徹する可能性が高いと考えられる。

【図表3】ガソリン小売価格



(注)直近は9月。週次ガソリン小売価格の月次平均。
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。